

江田弘良氏の「風景写真展」閲覧記2

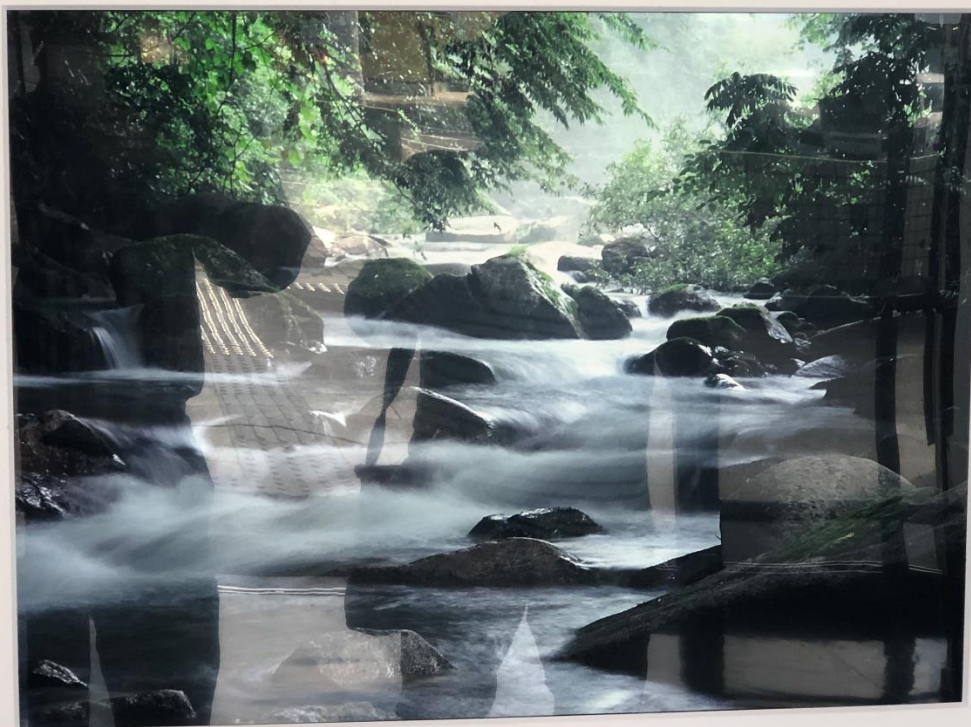
令和2年10月3日 記:高岡一人

展示会場:坂野記念館(岡山市北区栢谷)

閲覧日時:令和2年10月2日午後

同行者:鎌田節男 下西二郎 近藤泰治

1. 展示場入り口



表題「瀬音」

あいにくと写真にはカメラマンのバックが映り込んでしまった。生で見るとスローシャッターの効果、光と陰影の妙で水と空間を素晴らしい感覚で切り取っている。皆が絶賛する一枚。

展示室に入る前からこの一枚に圧倒された。

2.展示室内



表題「スカーレット」

夕焼けの空を背景に五重塔のシルエットがそびえる姿、形だけならよく見る構図なのだが彩の奇抜さがとても印象的だ。



表題「集う」
画面いっぱいに紫陽花の花びらが集うさまはまさに「集う」だ。



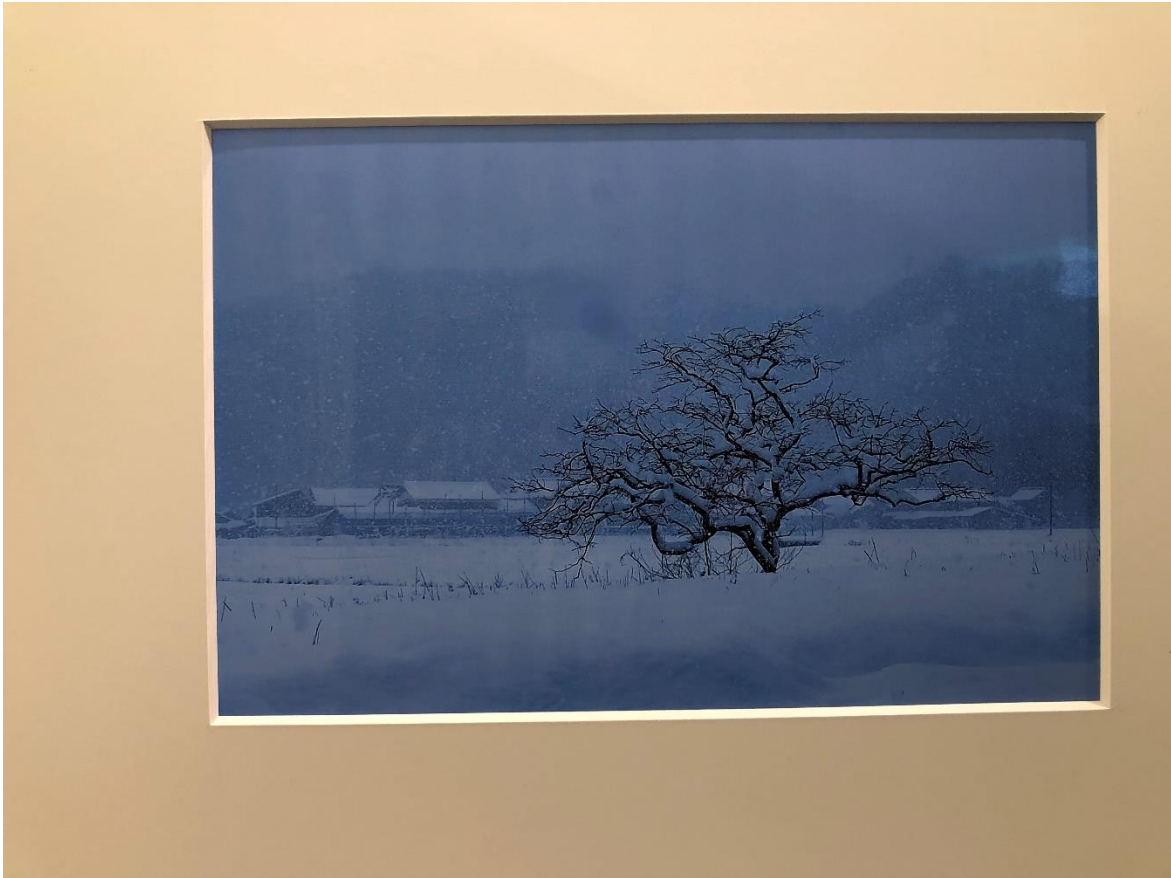
表題「透けて」
焦点深度を浅くして遠景をぼかす手法と木陰に位置をとっていい雰囲気をつめている



表題「天使、導く光」玉藤 香さん作品



表題「秋深し」江田さん作品



表題「白い街」

何とはなしに昔の田舎の冬の風景を思い出すような一枚。

冬の季節感がいっぱい表現されていてとても感動的な作品だと思う。こんな風景に出会えるチャンスはありそうでなかなか難しい。普段から様々な場所を歩いているからこそ一枚か？

3.同行三羽鳥



こちらは同行者、左から近藤さん、下西さん、鎌田さん



こちらは余分かも…。展示会の前の腹ごしらえにランチをいただいた「洋食anjou」前

<終わりに>

まだまだ紹介しきれない作品がたくさんありますが、どの一枚も常日頃から自分の感性を磨き細心の注意と関心を注ぐことで生まれるのであろうと、作者の心意気を感じるものばかりであったことをお伝えしておきたいと思います。

なお、一部の写真は我が友、近藤氏撮影のものを使用させていただいておりますことを付け加えておきます。

記者：高岡一人